

令和3年度第2回静岡県立中央図書館協議会議事録（要旨）

- 1 日 時 令和4年2月24日（木）午後1時30分から午後4時まで
- 2 会 場 静岡県立中央図書館 3階中集会室（委員はWebによる参加）
静岡県駿河区谷田53番1号 電話番号054-262-1242

3 出席者

(委員)			(図書館)		
委員	轟木 堅一郎	(会場)	館長	赤石 達彦	
委員	松浦 京子	(Web)	副館長兼総務課長	殿岡 容子	
委員	内山 淳子	(Web)	総務班長	阿部 幸子	
委員	庄田 達哉	(Web)	主査	中野 卓哉	
委員	鈴木 千明	(Web)	企画振興課長	森川 景尚	
委員	村松 啓至	(Web)	企画班長	青木 修	
委員	吉見 光太郎	(Web)	資料課長	木村 知美	
			調査課長	仲村 修也	
			教育主査	望月 克洋	
			社会教育課	高田 和明	
			新図書館整備室		

4 内 容

- (1) 開会
- (2) 館長あいさつ
- (3) 会長あいさつ
- (4) 議事

ア 県立中央図書館の状況について

イ 令和3年度重点取組・重点施策の評価について

【質疑応答・意見交換】

【重点取組の評価について】

(委員) (1) 「新県立中央図書館整備への対応」について

「Web利用者登録」とか「電子図書館」導入がとても助かっていて、私も実際に電子図書館で書籍を読ませていただきました。実用書でしたが、とてもよかったので、小学校のボランティアのお母さんたちにも、県立図書館まで行けなくてもWebで利用者の登録ができるよ、それで、電子図書館をすぐ使えるようになるよ、ということを勧めました。磐田に住んでいる私たちにとっては、(県立中央図書館は) ちょっと遠く距離があるところですけど、電子図書館の導入やWebでの利用者登録によって、すごく身近になった感じがして本当に助かります。こういうことを、このコロナの時にやってくださって、本当にタイムリーで、これからは是非やっていって欲しいなと思います。素晴らしいなと思いました。

(委員) (5) 「県内図書館のさらなる活性化への寄与」について

下から二つ目のポツは、牧之原市立図書館「いこっと」のことですね。これは、民間と共用の図書館で注目を浴びている場所で、とても面白いと思っています。今年の図書館大会でも、いろいろな図書館のあり方のご紹介がありました。是非いろいろな情報を紹介していただけるとありがたいと思います。先ほどお話もありましたが、図書館が身近になると、より使いやすくなってくると思います。公立図書館は行かなければ利用できない、と昔は言われていました。ネットで利用ができた、図書館に行くわけではないけれど、他の用事で行って本に触れる機会があったりすると、よりいろいろな年代の人に本に触れてもらえる。そのような機会が多くなるように、さらにいろいろな形ができてくるといいなと思います。また、県立図書館も、東静岡に移転することによって、立地的なことが今とは変わってきます。いろいろな工夫を考えていただけるとありがたいと思いました。よろしくお願いします。

(委員) 皆様こんにちは。久しぶりの会議でお元気だったでしょうか。東伊豆の図書館も懐かしいなと思います。お元気で大変嬉しく思います。その中で、僕はいつも図書館教育の中で一番ポイントに挙げてるのは、実はレファレンスサービス等の充実で、(6)「レファレンス・課題解決支援サービスの充実」について、「国会図書館レファレンスサービス研修に応募したが、抽選の結果落選」という内容がありますけれども、地域図書館と連携をしながら、レファレンス技術の向上または、調査時間の短縮、回答のばらつき防止等の実践を積んでいただいているわけですが、そういう中で、現在、自己評価でAということですが、レファレンスについて、特に何か課題になっているところがあれば、少し触れていただけるとありがたいなと思います。

(図書館) レファレンスについての現在における課題ということですが、直近で言いますとやはりこのコロナ禍の中で、基本は、なるべく利用者の方も対面で、インタビュー形式で、いろいろな聞き取りをしながら、じっくりと本当に探したい資料は何かとか、そういう調査研究のために知りたいことは何かということをお互いに話しながら突き詰めていく、というのが理想です。しかし、今この状況で利用者の方も非常に気にされて、なかなかそういうところが深まっていらずに、まあこの辺りでいいです、ということで終わってしまうこともあり、また事後調査も行いますよ、と必ず伝えますけど、大丈夫ですよこれで、ということで終わってしまうこともあるものですから、そういったところをもう少し深める手だてを何か考えていかなきゃいけないかな、と思っています。またこれは、こういう状況の中で、館内で少し出てる話題でもあるのですが、これからメールでのやりとり、というようになってきている中で、大学図書館は既にあるのかなと思います。Webでのレファレンスのやりとりというのも、DXを進める中で、新館に向けては手を付けていかなければいけないところかなと思っています。そのために私たち職員も研修をきちんと受けた上で、取り組んでいかなければいけないかなと感じています。

(委員) レファレンスに関して、先月、地方自治法の改定についての本を借りたいという資料の依頼があったのですが、そのものずばりを県内の図書館は、どこも持っていないくて、困った案件。県立図書館に相談したところ、そのものずばりではない、関連資料で類似のものを見繕ってくださいまして、それを届けたところ、とても感謝されまして、そういう形で市町が、いろいろなところから、課題解決のための質問を受けた時に、県立が相談にのってくださって、応えることができ、市町の図書館の株が上がるみたいなこともよくありますので、とても助かっております。以上レファレンスについての感謝の言葉です。

(委員) (7)「子どもの読書活動推進への寄与」について、新刊サロンのYouTubeの動画で配信されているのを、よく聞かせてもらって、続けてくださっていてありがたいと思います。それから子ども図書研究室の展示について、それぞれのテーマに応じた本が公開されていて、私も小学校の図書館展示に、この前節分を鬼と豆についてのテーマで、ちょうどこういう展示があったよ、ということで、それを紹介したら、早速小学校の図書室の置いてある本を、図書室の廊下に掲示していました。実際に子ども図書研究室の新刊サロンや展示の公開が、すごくこのように直接役立っているのも、本当にありがたいなと思っています。選定図書のリストも毎回楽しみにさせていただいて、これからもそこは継続して行って欲しいと思います。ありがとうございます。

(委員) この子ども図書研究室について、市町の図書館に対して、何か連携みたいなものや情報提供などはしているのでしょうか。

(図書館) 市町の図書館に講師派遣事業を行っていたり、新刊巡回展示等を市町の図書館の方向けに行っています。

(委員) ありがとうございます。今、お話しがあったように何か、学校と繋げてくれる人がいると、子ども図書研究室がもっと生きていくだろうなと思います。私自身も(子ども図書研究室の)名前やどういう場所だということも知っているのですが、なかなか利用をしたことがありません。今年、この協議会に出させていただき関わるようになって、もったいないな、何か切り込みができたかなと思いました。今、お話を聞いて、やっぱり、繋げる人がいるというのが大事かなと思いました。学校と市町の図書館は繋がっていることが多いものですから、それを利用するのも一つの手かなと思い、質問をさせていただきました。ありがとうございます。

(図書館) ありがとうございます。とてもいいご意見をいただきました。ありがとうございます。

(委員) すみません、ちょっと質問ですけれども、重点取組・重点施策評価書の5ページの(7)、上から2行目、資料の市町立図書館貸出という文言がありますが、子ども図書研究室の資料は市町の図書館には貸出しが可能ですか。

(図書館) 可能です。図書館内までですが可能です。

(委員) その市町の図書館の中で見るならば、例えば、静岡市の北部図書館にお願いをして、貸出の申請をして、そこへ持ってきてもらうことは可能とい

うことですか。

(図書館) できます。

(委員) では、またそのことについて後日教えてください。

(図書館) ぜひお問い合わせください。

(委員) (7) 「子どもの読書活動推進への寄与」についてですが、県立図書館に子ども読書に関して、より一層寄与していただきたいという願いがあります。先日行われた草谷桂子さんのジェンダーの講演会はとても参考になりました。それから新刊サロンの動画配信も選書の参考になりますし、巡回展示も新刊児童図書を実際に手に取って見られるので、選書の参考にすごくになりますので、とてもいいなと思います。あと、子ども読書に関して、司書同士で話し合う機会を設けてくださるとするのは助かっています。新県立中央図書館整備に関しましては、他県の良い図書館の事例を参考に、静岡県も作っていただきたいと思っております。どこの県も、結構子ども読書に関して、力を入れているなあと感じています。私の少ない経験でも例えば、岡山県とか、福井県とか、山梨県、今度、石川県が新たに7月にオープンするそうですが、どこも子ども読書に関して県立がとても力を入れており、子どもエリアというのを充実させています。石川県の子どもエリアには、フィールドアスレチックみたいな遊び場も設置されているということで、とても魅力的な、子どもたちが行きたいなと思うような県立図書館を作られるそうです。静岡県もぜひ(7)の子ども読書活動推進への寄与を念頭に置いた新しい図書館をつくっていただきたいなと願っております。以上です。

(図書館) そうですね。県としてもやはり子どもの読書習慣の確立というところは、すごく力を入れているところで、当然当館としましても今後力を入れてやっていきたいと思っております。また新館では、今の「どんぐりひろば」と子ども図書研究室を合わせて、子ども図書館として整備していくという計画になっております。今、委員からご指摘があったように、いい取り組みをしているところはどんどん参考にしていきたいと思っておりますので、今後もどうぞよろしく申し上げます。

(委員) (8) 「専門書を中心とする資料収集と地域資料の充実」について、予算が昨年度に比較しまして、約940万程度減額になったということで、これ冊数にするとどうなんでしょう4,000冊とか5,000冊ぐらいなのかなと思いますが、これは図書館のパイの問題だとか工事の問題、移転の問題いろいろあると思いますけれども、これは図書館としても致し方ないというふうに思われているのか。要望とかはどのようにして出し、県の財政課にどう話を出しておられるのか、また、来年度もそのような形、同じような減額した形になるのか、それとも増えるのか、その辺りをお聞かせ願えればありがたいなと思います。

(図書館) ありがとうございます。先ほど御説明させていただきましたけれども、今年の940万円の減額というのはコロナ対応で、やはりさすがに多額の経費を要するというので、全庁的に経費削減を図る、ということがありまし

て、こういう形になっております。来年度の予算については、これは今、県議会が開かれているところなので、そこで議決がされないと正式には申し上げられないわけですが、今のところは昨年度と同じ額に戻るようになるのではないかなというふうに思っております。以上でございます。

(委員) いつもお世話になっております。私は本を作る仕事をしておるものですから、そちらの方の立場から二つほどお話をさせていただけたらと思います。まず、(8)「専門書を中心とする資料収集と地域資料の充実」というところですが、私も非常によく利用させていただいております。特に地域資料に関して言うと、すごくありがたい、と日頃から思っておるんですが、今後、分野をですね、現状からこの先を考えていくと、やはりなかなか本という、紙の本という形でですね今後出版物が出てくるケースが、従来より減ってくるんじゃないかなというように私は考えていて、専門書であればもう既にそうなっているものもあるかもしれませんけれども、とりあえず、電子データ・電子書籍と言っていいのかわからないですけども、資料をワードとかで作っておいてそれをプリントアウトして冊子にしてもらったりとか、或いはもう本当に電子で作っておいて、オンデマンド印刷で必要な部数だけを刷る、要は市販、市場に出回らないものが増えていくかなと、或いは、私どももよく考えてしまうんですけども、初版というかですね、例えば実用書だとか法律の本なんていうと、初版本を出した後に、改定の必要がどんどん出てくるんですけども、初版本は紙で出しても、改訂版は電子でしかできない、そういうケースが、これから増えてくるんじゃないかなと思います。そういうところもですね、どういう本がどういうふうに出るのか、どういう資料がどこでどういうふうになられていくか、というのが非常に多様化してくるのでは、と思いますので、そういった調査をどうやってしていくかみたいな、検討課題としてあるのではないかなと思います。我々も、出版サイドからすると本というのは紙だけじゃなく、デジタルというものも出てきたものですから、両方を必ずしも一緒に作る必要はないと考えていますので、ひとつそんなことがあるということをお伝えしたくてお話をさせていただきました。もう一つは、(9)「資料保存と貴重書等のデジタル化の推進」について、こちらの方も非常にありがたいお話ですが、一つお話をします。私どもの方で、ある先生の、皆さんもご存知の先生だと思っておりますけれども、先生がですね、葵文庫の展示会を見て、メリケン紀行という本を作られたのですが、それはもう本当に、葵文庫で保存されていた、日本がアメリカの方に最初に渡ったときの記録なんですけれども、それが全国のふるさと自費出版大賞の郷土文化部門で最優秀賞になりまして、非常に全国的にも貴重な資料ということで評価されております。そういうものをですね県立図書館は保管されていたということは、非常に大きなことでして、全国の新聞社の出版部門で大変話題になりました。でも、ここで、今、葵文庫の方の資料は27タイトルの修理を行った、ということですが、どういうふうな優先順位で、予算があると思うのですけれども、どういう予算で決められてい

っているのかな、ということにちょっと関心がありまして、保存状態の程度と、それから重要性みたいなものもあるんですけども、そういうものをちょっと教えていただければ、お伺いしたいなと思います。よろしくお願ひします。

(図書館) 貴重書に関しては、まず、この順番ということになると、今は葵文庫、久能文庫と、当館が所蔵してる中でも、当館設立から貴重な資料として残っているものをまず優先的に計画を立ててやってきました。これで現在、久能文庫もすべて終わってくという形になりましたので、一般の貴重書の順番を今後どうするかを考えています。一つ考え方としては、掲載許可が多いものとか、汚破損状態について、基本は業者の方に依頼して全部チェックしていただきながら、状態がひどいものについては、そちらを最優先しなければいけませんので、そのチェックと修繕という形になってきます。掲載要望の多いものについては、優先的にやっていく。それ以外については、まずそういったチェックをして修繕、そしてあとは、今のところ、どう順位付けというのはなかなか難しい資料もいっぱいあるものですから、基本的には今5年計画を立ててやっているんですけど、順番でやっていく形になります。

(委員) (10) 「特色ある展示・企画等の実施、葵レク（図書館講座）の充実」について、この協働の企画というのは、まさに県立図書館にとって、変身だなと思ひまして、「文化の丘」（県立中央図書館広報誌）の、この変身というのに、ちょっと感動しました。コロナ禍にあつて、文化の丘マルシェでは1,000人の来館者があつたということで、本当に市町としては、うらやましい限りです。今こういうのやりたくてもなかなかやることができずに、歯がゆい思いをしているのですが、民間の会社と連携して、プログラミング教室を子供向けに開催したり、あと常葉大学の学生にポスターを作ってもらったり、知事部局、県スポーツ文化観光部と協働して、グランシップ広場にてSDGsに関する「お楽しみぶっくろ」や、利用者登録を実施したなんていうのは、本当に見習いたい。真似して、市町でもこういうサービスをどんどんやっていきたいなつて思うようなことです。こういうことをやることによって、お互いにWin-Winの関係で、「文化の丘」によりますと、「当館だけでは解決することのできなかつた、図書館だけでは解決することのできなかつた課題に対し、館外の方の知見を生かして取り組むことで、事業効果を、必要十分以上に発揮することができました」という、こういうのを理想的だなあと思ひました。まさに変身、これからも頑張つてください。

(図書館) 先ほど館長や、委員の方からお話があつた通り、今年は協働というところを中心にやってきました。ある程度でこちらのもくろみ通り行くところもありましたし、もくろみ通りいかないところも多々ありました。いろいろなことをチャレンジしながら、少しずつ変身を努めていきたいと思ひます。また、皆様のお意見や、ご支援をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(委員) (10)に「お楽しみぶっくろ」を実施したということが書かれています。

図書館で本を選ぶのが難しいという方が意外に多くいらっしゃるようです。このように良い本やお勧めの本をセットにして提供するという取り組みは、「読んでみたいけれどどうだろう」と思っている方たちにすごく良いきっかけになると思います。展示でも素敵に紹介されていますが、このようにちょっとお楽しみを入れると、「何が入ってるのかな」と、ワクワクするかなと思います。いろいろなテーマで、この「お楽しみぶつくり」みたいなものを今後たくさんやっていただくとありがたいなと思います。よろしくお願ひします。

(委員) 何故こういうことをするといいなって思うかという、小さな図書館でも他の団体との連携事業をすると、普段いらっしゃる本好きではない、図書館に縁遠いような方が、新規利用者として図書館に来てくださって、そのあともファンになってくれるというようなことが起きています。新規利用者を獲得するためには、このような形の民間とか学生とか、その他の団体との協力ってすごく大事な、協働ですか、お互いに助け合ってWin-Winの関係になるというのはすごくいいな、理想的だなと思っております。

※重点取組のそれぞれの項目について、異議なく外部評価全てA

【各班の重点施策の評価について】

①総務課 1件 異議なく外部評価A

②企画振興課

(委員) 19ページ 企画振興課振興班の、市町立図書館とのネットワークということで、市町立図書館への情報提供、いつも本当にどうもありがとうございます。賀茂郡の図書館というのは、小さな図書館が多いのですが、年に1回、毎年、賀茂地区図書館職員研修会というのを実施しておりまして、今年度は2月7日に実施する予定でしたが、静岡県がまん延防止措置になってしまったということもありまして、延期。Zoom開催は検討してみたのですが、リアルに集まりたいという意見も多かったので、延期になり、6月20日に行うことになりました。それに関して、県立に相談したところ、いつもこの賀茂地区図書館職員研修会というのは、県立図書館の職員を講師にお迎えして、テーマを決めて研修を行い、みんなで、それぞれの図書館にある問題を情報交換したり話し合ったりしているのですが、その際に、協力車の運営相談もしていただいたりしています。今回、急な延期ということになったのですが、6月20日の実施に関しましても、県立図書館の担当の方がスムーズに対応してくださって、迅速に連携ができたのでとても助かりました。19ページ市町立図書館へのネットワークに関する意見です。

(図書館) ありがとうございます。本当にコロナの影響で大変申し訳ありませんでした。2月7日の賀茂地区研修会、こちらも、著作権の研修ということで予定しており、楽しみに準備していたのですが行けずに残念でした。しかし、6月20日には是非行けるように対応をとっていきたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

企画班、振興班 各1件 異議なく外部評価A

③資料課 図書班2件 異議なく外部評価A

新聞雑誌班1件 異議なく外部評価B

④調査課、歴史文化情報センター

(委員) 25ページの県内の障害者等への資料提供サービス体制の確立についてですけど、私、個人的なことですが、20代の後半にちょっと難病なりまして、筋力低下とか視力低下で車椅子生活をしていたことがあります。その時に、やっぱり今まで自分が思っていた目線とは違うものがすごくわかって、このマニュアルを作ったり、いろいろな情報を集めて、新館の開館に向けたサービス内容を検討するのは大事ですけど、情報ももちろんそうですけど、例えば、職員の方が1時間でも2時間でも実際に車椅子に乗って図書館の本を借りる体験をしてみるとか、そういう実感というか、そういうことを是非ほんのちょっとでもいいので体験していただいたら、その作ったマニュアルが活きるのではないかなと思います。私自身も、車椅子を外して歩けるようになった時も、歩道のちょっとした段差がすごく気になって、歩くのにすごく疲れました。自分が実際に体験してみて初めてわかることがたくさんあるので、いろいろな取り組みや情報を集めることと同時に、是非そういう体験作業を、お忙しいと思うのですが、やっていただけたら、より良いものができるのではないかと思います。

(図書館) 貴重なご意見ありがとうございます。本当におっしゃるとおりだなと思います。本当にちょっと恥ずかしながら、マニュアルというものが今まで実はこの長い間なかったのが現状でして、それを今作っているのですけれど、実際本当にこれを稼働させる、運用した時に、やはり、多々大きな課題が出てくる、ということを考えております。実際におっしゃるとおり、自分自身として経験しないとわからないことがいっぱいあると思いますので、是非やっていきたいと思っています。貴重な御意見ありがとうございます。

(委員) 26ページの、調査課地域調査班の評価書の中の、収集を決定した県内団体等の主催する文学賞や出版に関する賞の受賞作品について、今年度から静岡書店大賞受賞作品の収集を開始したということで、以前から県立図書館には、この静岡書店大賞に関しましては非常にご協力いただきまして、またこのように収集もしていただき、心より御礼申し上げます。私は、書店商業組合として出ていますが、まして書店大賞の主催ではないのですけれども、書店が絡んでいるところがございますので、非常に感謝しております。他県でもこのような県の大賞というのは行ってはいるのですけれども、やはり図書館司書にご協力していただいて、運営している、開催している、というところは少ないものですから、本当に静岡独自のものということでご協力いただき、今後とも官民協力して、こういう読書推進にまた取り組んでいただければ本当にありがたいと思っています。心より御礼申し上げます。

(図書館) この書店大賞については、本当に皆さんにご協力いただきありがとうございます。先ほどおっしゃられたとおり、全国的に見ても非常に珍し

い取り組みだと思っていますので、図書館としても、これも引き続き力を入れて進めていきたいなと思っています。もちろん皆さんの御協力を得てということですが、そういう方向で進めていきたいと思っていますので、どうぞこれからもよろしくをお願いします。

(委員) 26ページ地域調査班と27ページ歴史文化情報センターについて、ちょっとお礼をしたいなと思っています。利用者の数というものは多くないとは思いますが、このような仕事があって、我々出版社というのは、本がつくれるということで、これがあまり充実していないとですね、いい本をつくっていきませんので、今回のこのご報告を聞きまして、非常に熱心にお仕事をされていることがわかりましたので、本当に御礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

(委員) 25ページの障害者サービスに関連してで、今すぐにとということではありません。もちろん、図書館に来て利用するときのことをいろいろ考えていらっしゃると思いますが、例えば、静岡市の曲金にある視覚特別支援学校みたいなのと、何か関わりみたいなのもを考えてみたら、より違う目線のアドバイスをいただけるかもしれないなと少し感じました。また機会があったらと思ったので、一応お伝えさせていただきます。

(図書館) 実際今度は令和4年、5年に向けて、特別支援学校との連携も視野に入れて、計画を立てております。そういったところからさらにボランティアとの連携とか、さらに育成、そういったところまで、どんどん踏み込んでいって、とにかく新館開館時には、全国でも通用するような障害者サービスというのを展開していこうと今、チームの方でも考えて、計画を立てているところです。本当に、実は静岡県は、市町はとても頑張ってくれているんです。県立が遅れてるという状況ですので、市町とも連携を深めていながらさらに、静岡県視覚障害者情報支援センター、昔の点字図書館との連携も今模索しているところですので、そういうところも踏まえて、いいものを作っていこうと思っています。貴重なご意見ありがとうございました。

一般調査班 異議なく外部評価A

健康医療情報ワーキンググループ 異議なく外部評価B

障害者サービス検討プロジェクトチーム 異議なく外部評価A

地域調査班 異議なく外部評価A

歴史文化情報センター 異議なく外部評価A

ウ 令和4年度の基本方針と主要施策について

【質疑応答・意見交換】

(委員) 1ページの下(2)のところですが、入館者数、貸出数が削除ということで、もちろんそういうことだと思のですが、今年度の電子ブックとか、そういったオンラインでの参加、入館というか、そういったところのカウンタとかその解析とかはどうされるんでしょうか。

(図書館) そうですね、これはまた考えなければいけないと思っていますんですが、私としては、やはり電子書籍を利用した人も利用者という形でカウントしていく、ここは入館者という形になっても、今は実際にここに来ていただく方を想定してるんですが、ここに来なくても、当館のサービスを利用した人はちゃんと利用者としてカウントしてく、ということは考えていかなければいけないかなと思っています。

(委員) そこは別に、というか、積算するところもあるし、別でカウントして表示する、という両方、ということでもいいですか。

(図書館) そこをどう扱うかはまたこれからかと思うのですが、しっかり電子の利用者も、両方押さえながら、どういう表現、表し方にするのか、ということは今後考えていかなければいけないかな、基本的には、両方合わせた形でカウントしていくということになるろうかと思います。

エ 新県立中央図書館の整備について

【質疑応答・意見交換】

(委員) 新県立図書館のことについてですが、実際に予定が、かなり変更になっていろいろ本当に大変だったと思いますけれども、ようやくプロポーザルまで来たということで、是非とも、より具体的に進めていただけるとありがたいなと思います。しかし、内容はプロポーザル、正式にいろいろな方向性が見えるのが、まだこれからだというふうに思いますけれども、それが出た段階で、どういうイメージの内容なのかということ、また私どもに教えていただけるとありがたいし、それを是非とも県民の皆様方にお知らせできると僕はいいんじゃないかなと思いますので、いろいろ迷走いたしました、是非とも頑張ってくださいとありがたいなと思います。

(社会教育課) 御期待を、とてもありがたく受けとめました。来年度、設計が進んでいく中で、しかるべき段階に来たら、新館のイメージを伝えていって、県民の、静岡県内の皆さんと、イメージを共有していきたいなと思います。ありがとうございました。

オ その他

【質疑応答・意見交換】

(委員) お礼というか、いつもTwitterを拝見していて、いろいろな様々な行事、マルシェについても、ヒガナンについても、それから新刊サロンの動画の配信についても、それからいろいろな図書館でこういう展示を今していますという、写真付きの案内も、毎回楽しみに見ていて、ちょっとコロナのこともあって、あと距離もあるので、実際に足を運ぶことはなかなかできないんですけど、そういう情報をもとに、自分の今後使うべき、使いたい図書館がこういうことやってるんだ、ということははっきりわかって、本当にありがたいし、皆さんがこういう大変な状況の中でも、地道にいろいろな取り組みをされていることがはっきりわかって、これからも、是非Twitterで、大変かと思

うんですけど、いろいろな発信をしていただいて、ちょっとなかなか個人的には足を運べなくても、今後、コロナのことも収まってきたら、本当にマルシェにも来たいし、いろいろな自分の興味のある展示を見に行つて、実際の本を借りたいな、ということ日々思っています。よろしくお願いします。

(委員) コロナと施設の老朽化との戦いで、本当に職員の皆様大変だったなというふうに思います。その中をよく乗り越えてきたなど。私どもも4館とそれから子ども図書館をもっていて、本当に図書館の経営・運営というのは大変だったなど。それから資料の収集、それから後、いろいろな内容が難しかったなと思います。消毒一つとっても、本当によく頑張つてやれたんじゃないかなというふうに思います。それとあともう一つ、今出てきてるのが、研修ができる、できない、というのがありますがけれども、実際に研修するとかしないとかということもありますけれども、今、県のセンターでも話題になっています、ベストミックス、オンラインで研修をやるのか、それとも実際に集合型でやるのか、というのを、是非とも図書館の研修でも考えていただいて、進めていただけるとありがたいな、という感想を持っています。教育DX、デジタルトランスフォーメーションの時代ということで、なかなか年寄りについてはついていけないんですよ。大変ですけど、だけど、是非とも、ここの波を乗り越えていっていただくとありがたいなと思います。町の図書館も是非見学に行きたいと思いますのでよろしくお願いします。ありがとうございました。

(委員) よろしいでしょうか。それでは、本日の議事は以上になります。活発な意見交換をいただき、ありがとうございました。

今回、本日の協議会での意見というものを、今後の図書館運営や新県立中央図書館の整備の参考にしていってください。